

KIRII

GTクイーンアウトドアWD

根太鋼4060

標準施工要領書

株式会社 桐井製作所

2014.10 現在

Ver.141001

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 第1章 一般事項 | |
| 1.1 工程管理 | 2 |
| 1.2 部材名称 | 2 |
| 1.3 部材仕様 | 3 |
| 第2章 構成材の施工 | |
| 2.1 施工前の確認 | 5 |
| 2.2 荷受・保管 | 5 |
| 2.3 標準施工 | 6 |
| 2.4 点検・検査 | 9 |
| 2.5 養生 | 9 |
| GTクイーンアウトドアWD 施工チェックリスト | 10 |

第1章 一般事項

1.1 工程管理

当施工要領書記載事項変更の必要が生じた場合、又は記載なき事項については、施工着工前に工事発注責任者の指示に従い、承認を得た後施工を行うこと。

1.2 部材名称

各部材の名称は図-1、図-2による。

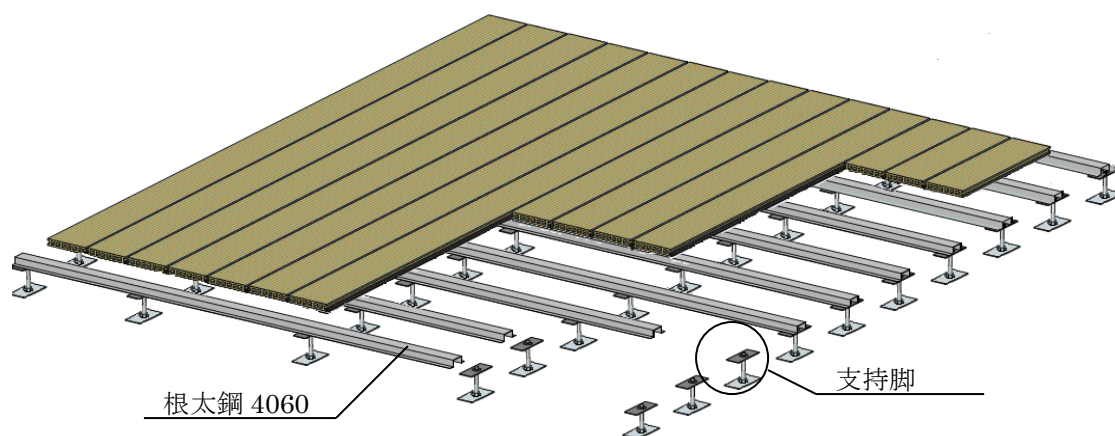


図-1 構成図(根太シングル工法)

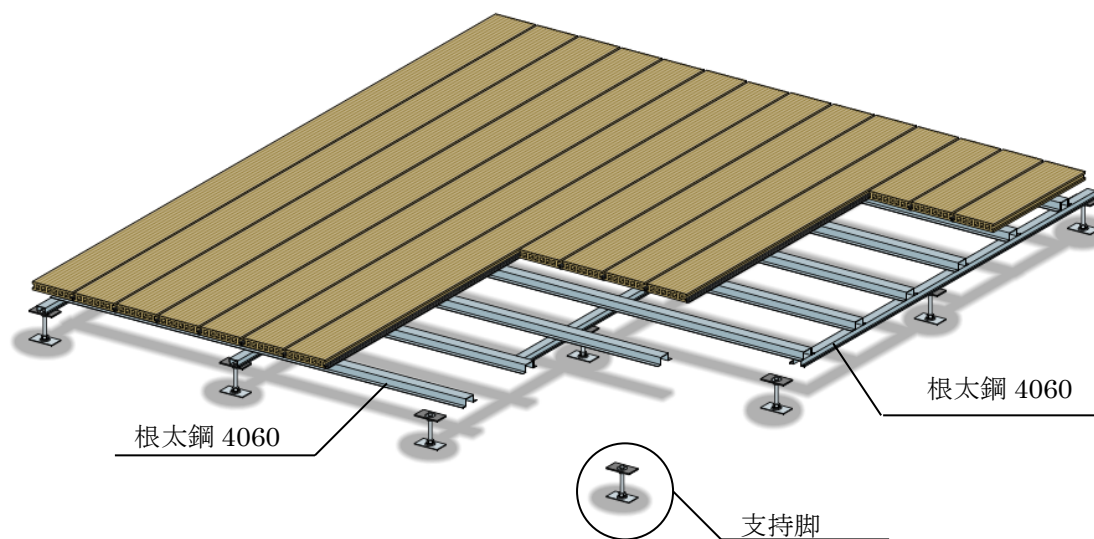
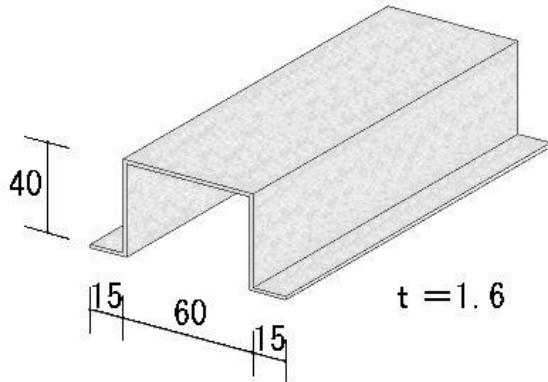
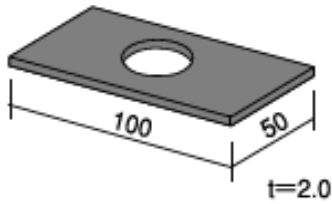


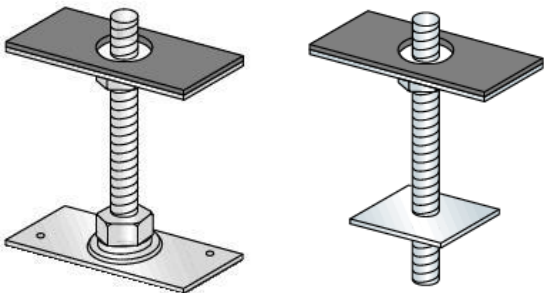
図-2 構成図(根太クロス工法)

1.3 部材仕様

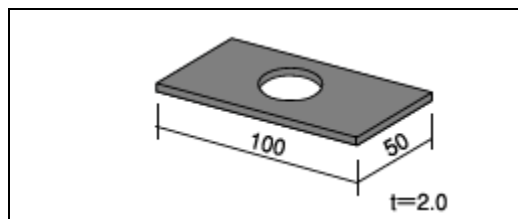
構成部材仕様一覧を以下に示す。

| | |
|--|-------------------------------|
|  | |
| 名称 | 根太鋼 4060 |
| 定尺 | 2,400 mm |
| 材質 | 溶融亜鉛アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板および鋼帯 |
| 表面処理 | K27 以上 |

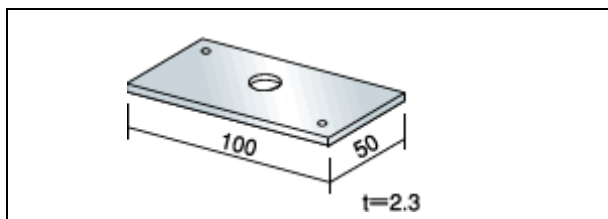
| | |
|---|----------------------|
|  | |
| 名称 | 4060 用根太パット |
| 材質 | 天然ゴム JIS K 6386 A-11 |

| | |
|--|-----|
|  | |
| <p>プレートタイプ 埋込タイプ</p> | |
| 名称 | 支持脚 |

「支持脚」構成部材仕様一覧を以下に示す。



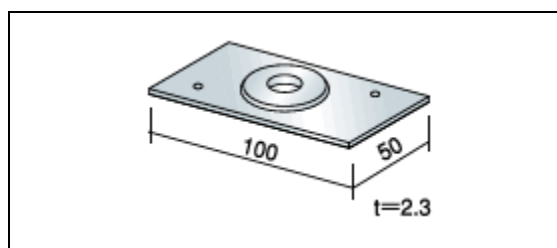
| | |
|----|----------------------|
| 名称 | クッションゴム |
| 材質 | 天然ゴム JIS K 6386 A-11 |



| | |
|------|--------------------------|
| 名称 | 受け金具 |
| 材質 | 溶融亜鉛アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 |
| 表面処理 | K27 以上 |

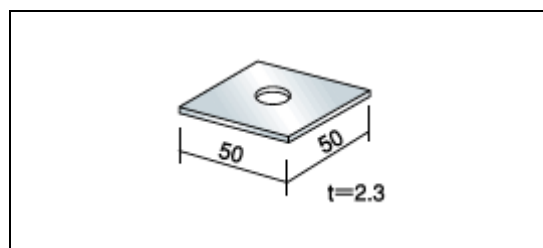
| | | |
|--|----|----------------------------------|
| | 名称 | 1/2”調整ボルト 1/2”ナット 1/2”スプリングワッシャー |
| | 材質 | 軟鋼線材 JIS G 3505 |
| | 処理 | プロイズ処理 |

《プレートタイプ用》



| | |
|------|--------------------------|
| 名称 | 支持プレート |
| 材質 | 溶融亜鉛アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 |
| 表面処理 | K27 以上 |

《埋込タイプ用》



| | |
|------|--------------------------|
| 名称 | 調整座金 |
| 材質 | 溶融亜鉛アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 |
| 表面処理 | K27 以上 |

第2章 構成材の施工

2.1 施工前の確認

- (1) 施工に先立ち工程表、施工図を作成し発注者側に提出し承認を得ることを原則とする。
- (2) 施工前に施工場所の確認を行い、工程、施工範囲、各部の納まり、その他関連する事項について、確認する。
- (3) 床基盤の養生はコンクリートスラブなどコンクリート打設後、10日以上経過していることを確認する。
- (4) 施工場所が完全に清掃・後片付けなど完了しているか、点検する。

2.2 荷受・保管

納品書等により員数の点検と各部材の破損等の確認を行うものとする。

保管にあたっては次の事項に注意する。

- (1) 各構成材置場の設置は事前に確保すること。
- (2) 重量物を載せないこと。
- (3) 衝撃を与えないこと。

2.3 標準施工

① 基準墨出し

床基盤をよく清掃し、基準墨出しを行う。基準墨は設計図及び施工図に基づき所定の間隔により支持脚や根太鋼の位置と割付を行い墨出しする。壁側などの支持脚は所定の位置に割付する。(図-3, 図-4 参照)

床の高さは建物の基準レベル墨に基づき施工図の納まり等を確認して、所定の床の高さや構成材の位置の墨出しを行うものとする。

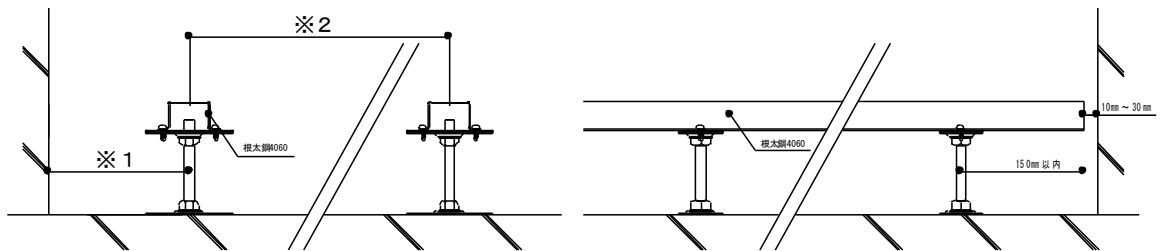


図-3 標準納まり図例(根太シングル工法)

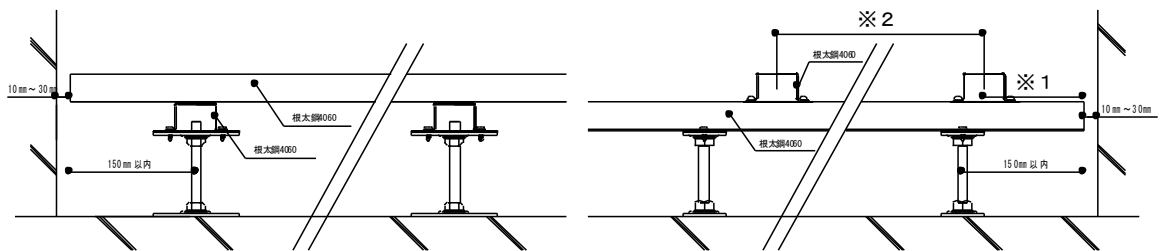


図-4 標準納まり図例(根太クロス工法)

※ 際部の納まりについては、仕上げ材(ウッドデッキ等)の施工要領を優先し、支持脚や根太鋼の位置を決定する事。

※1 仕上げ材のはね出し許容長さにより決定する事。

※2 根太ピッチは仕上げ材メーカー規定を遵守する事。

② 支持脚の設置

スタンドの固定は基準墨に従って、プレートタイプにおいては固定鋺（固定ピン）若しくは接着剤により固定し、埋込タイプにおいては接着剤によって堅牢に固定する。

(1) 固定鋺（固定ピン）による工法《プレートタイプ》

固定鋺による工法は支持脚1脚当たり2本以上の鋺（ピン）で床基盤に固定する。

(2) 接着剤による工法《プレートタイプ》

支持脚におけるコンクリートスラブとの接地面にエポキシ樹脂系接着剤を塗布し、硬化まで養生する。

(3) ボルト埋込工法《埋込タイプ》

ボルト埋込工法は床基盤にまずコンクリートドリルなどで穴空け加工し、その穴にエポキシ樹脂系接着材を注入する。（参考：接着剤使用量 約 6g/箇所）

調整座金にて埋込深さを調整した支持脚を挿入し、接着剤が固まるまで養生する。

埋込深さは、ボルト長さ 60mm～120mm に対し 30mm 程度、150mm～250mm に対し 50mm 程度とする。（[図-5](#) 参照）

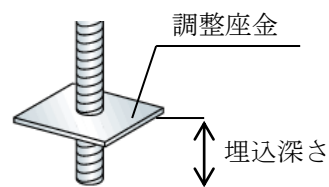


図-5 調整部

(4) 支持脚の配列と配置

支持脚の配列の間隔は大引き方向に@1200mm以下にし、配置は各列とも等間隔または千鳥状の配列・配置によって施工する。

際部の支持脚は根太の端部より 150mm 以内に配置する。（[図-3](#)、[図-4](#) 参照）

※ 仕上げ材（ウッドデッキ等）のはね出し許容長さによって調整する事。

③ レベル確認

レーザー又は水系を用い、上部プレートにてレベル調整を行う。根太鋼高さが 40mm の為、求める根太上寸法より -40mm が調整寸法となる。

レベル調整後は、上部ナットを十分に締め上げ、受け金具を固定する。（[図-6](#) 参照）

なお、現場不陸などによりやむを得ずボルトをカットして使用する際は、必ず小口に防錆処理を施して使用する事。

※ 推奨補修液：高耐食処理溶液[プロイズ補修液]

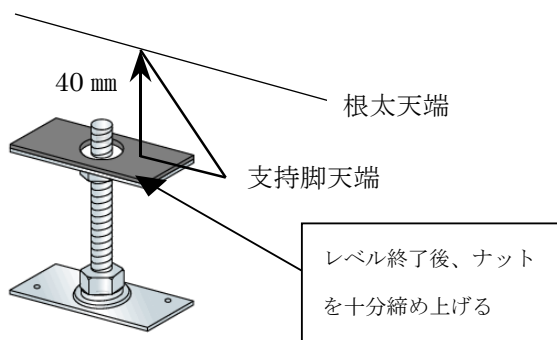


図-6 レベル調整

④ 根太鋼の取付け

左右各 1 箇所ずつ、計 2 箇所をビス[φ4×13 mm～19 mm程度]にて受け金具に固定する。
(図-7 参照) 根太鋼のはね出しは 150 mm以内とし、壁側等は 10 mm～30 mmの間隙を設けて施工する。(図-3 参照)

※ 推奨ビス：サスガード®ビス[φ4×13 mm～19 mm程度]

ジョイント部は根太鋼間に間隙を設け (5 mm程度)、同一支持脚上にて設置する。
(図-8 参照)

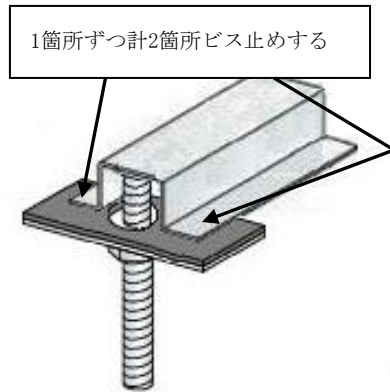


図-7 根太鋼固定

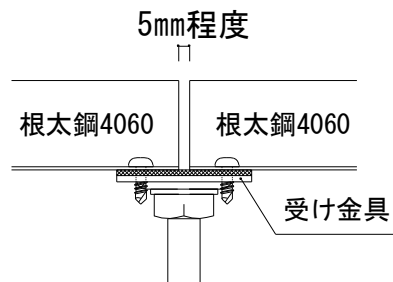


図-8 ジョイント部

《根太クロス工法のみ》

⑤ 根太鋼 4060 (上部) の取付け

根太鋼 4060 (下部) 上部に均等に配置する。根太鋼 4060 (下部) 上面に接する部位は、必ず根太鋼 4060 (上部) と根太鋼 4060 (下部) の間に 4060 用根太パットを設置し、左右各 1 箇所ずつ、計 2 箇所をビス[φ4×13 mm～19 mm程度]で固定する。(図-9 参照)

根太鋼 4060 のはね出しは 150 mm以内とし、壁側等の間隙は 10 mm～30 mm設けて施工すること。(図-4 参照)

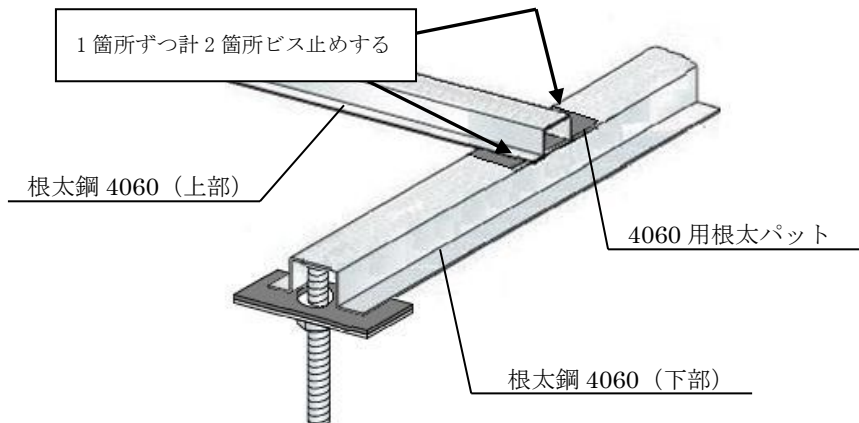


図-9 根太クロス工法

2.4 点検・検査

構成材の施工完了後における点検・検査は下記の項目により行うものとする。

- (1) がた付き及び緩みの点検（支持脚ナットの締め付けは全数確認すること）
- (2) 割付ピッチ点検
- (3) レベル点検
- (4) スタンド固定ピン点検
- (5) 設計図及び施工図に基づく施工範囲の検査
- (6) 床の高さの検査
- (7) 床の水平レベルの検査
- (8) 周辺部との取合い及び間隙等の検査
- (9) 目違いの点検
- (10) 必要な補強場所の点検
- (11) その他これらに付帯する事項の点検と検査

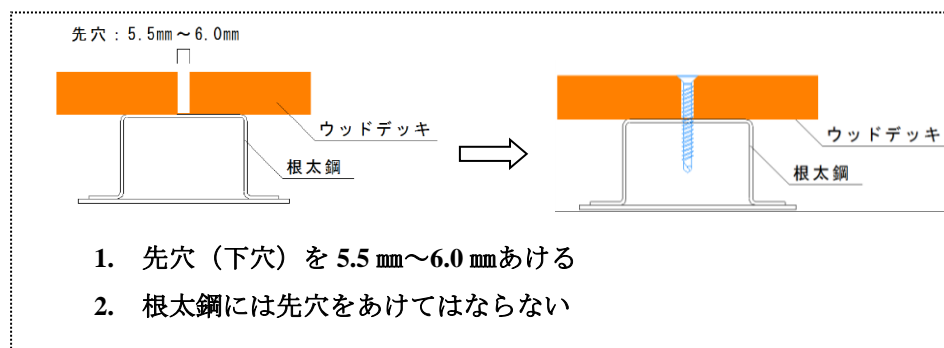
2.5 養生

床下地構成材の性能を損なわないように次の事項を厳守する。

- (1) 重量物を集中的に載せないように配慮する。工事用の部材は一箇所に固めず、分散して集積する。また、集積荷重は 180 kg f/m^2 以下とする。
- (2) 重量物等による衝撃や外力を加えないようにする。

※ 仕上げ材（ウッドデッキ等）の施工方法（止め付け材・固定ピッチ等）については、仕上げ材メーカーの施工要領を確認の上、施工方法を決定すること。

※ 仕上げ材がウッドデッキの場合において、根太鋼との締結方法はウッドデッキメーカーが指定するビス並びに施工方法に従い施工すること。但し、当社の推奨ビスがその条件に合うなど使用が可能な場合は、以下施工要領にて使用してもよい。



GTクイーンアウトドアWD（根太鋼 4060）《根太シングル工法》

施工チェックリスト

【自主検査書】

提出日 年 月 日

| No. | チェック内容 | 検査 | |
|-----|--|----|---|
| | | 合 | 否 |
| 1 | スタンドは、固定ピンまたは接着剤により堅牢に固定されており、がたつき・浮き・緩み等生じていないか。 | | |
| 2 | レベル調整後の支持脚について、上部ナット1個・スプリングワッシャー1個により緩み無く締め付けられているか。 | | |
| 3 | 根太鋼 4060 と支持脚は、所定の箇所（受け金具に左右各 1 箇所ずつ、計 2 箇所）にビス固定されているか。 | | |
| 4 | 根太鋼 4060 のジョイント部は、間隙（5 mm程度）を設けているか。 | | |
| 5 | 根太ピッチは仕上げ材メーカー規定を遵守されているか。 | | |
| 6 | 際部において、根太鋼 4060 はね出し寸法が 150 mm以内となるように、支持脚が設置されているか。 | | |
| 7 | 際部において、端列の根太鋼 4060 は端部より仕上げ材に規定されるはね出し許容長さで設置されているか。 | | |
| 8 | 際部において、根太鋼 4060 端部が壁側等より所定通りの間隙（10 mm～30mm）で設置されているか。 | | |
| 9 | 床下地構成材が壁やコンクリート基礎等に接触していないか。 | | |

| | | | |
|------|--|----------|--------------|
| 現場名 | | 検査日 | 年 月 日～ 年 月 日 |
| 検査者名 | | 責任者名（確認） | |

GTクイーンアウトドアWD（根太鋼 4060）《根太クロス工法》

施工チェックリスト

【自主検査書】

提出日 年 月 日

| No. | チェック内容 | 検査 | |
|-----|--|----|---|
| | | 合 | 否 |
| 1 | スタンドは、固定ピンまたは接着剤により堅牢に固定されており、がたつき・浮き・緩み等生じていないか。 | | |
| 2 | レベル調整後の支持脚について、上部ナット1個・スプリングワッシャー1個により緩み無く締め付けられているか。 | | |
| 3 | 根太鋼 4060 と支持脚は、所定の箇所（受け金具に左右各1箇所ずつ、計2箇所）にビス固定されているか。 | | |
| 4 | 根太鋼 4060 のジョイント部は、間隙（5mm程度）を設けているか。 | | |
| 5 | 全ての根太鋼 4060（上部）・根太鋼 4060（下部）交差部に 4060 用根太パットを設置しているか。 | | |
| 6 | 根太鋼 4060（上部）のジョイント部は根太鋼 4060（下部）上で固定し、間隙（5mm程度）を設けているか。 | | |
| 7 | 際部において、根太鋼 4060 はね出し寸法が 150mm以内となるように、支持脚が設置されているか。 | | |
| 8 | 根太ピッチは仕上げ材メーカー規定を遵守されているか。 | | |
| 9 | 際部において、根太鋼 4060（下部）から根太鋼 4060（上部）のはね出し寸法が 150mm以内となるように設置されているか。 | | |
| 10 | 際部において、端列の根太鋼 4060（上部）は根太鋼 4060（下部）端部より仕上げ材に規定されるはね出し許容長さで設置されているか。 | | |
| 11 | 際部において、根太鋼 4060（下部）端部・根太鋼 4060（上部）端部が壁側等より所定通りの間隙（10mm～30mm）で設置されているか。 | | |
| 12 | 床下地構成材が壁やコンクリート基礎等に接触していないか。 | | |

| | | | |
|------|--|----------|--------------|
| 現場名 | | 検査日 | 年 月 日～ 年 月 日 |
| 検査者名 | | 責任者名（確認） | |